

広報

あいづばんげ

2017
No. 635

7



特集 夢を叶える ばんげの高校

目次 -CONTENTS-

各課からのお知らせ	6
まちの話題	12
図書室だより・町史編さん室より	16
ばんげのいいとこ、みつけた 7月のカレンダー	17
ばんげの味が育てるおいしい楽しい健やかライフ	18
御田植祭のお知らせ	19
お知らせ infomation	25
こどもと健康の広場	26
「馬場 泰 展」のお知らせ	28

特集

夢

を叶える

ばんげの高校

多様な進路希望に対応できる普通科高校



県立坂下高等学校



会津坂下町には県立の高等学校2校が立地しています。県内でも町内に、それも隣接して2校も高校が在るのは会津坂下町のみで、大変教育環境に恵まれた地域であると言えます。

その特徴や学習内容も異なる坂下高校と会津農林高校。それぞれの魅力を探ります。

表紙撮影場所
坂下高等学校グラウンド

修学、礼節、鍛錬を校訓に掲げる県立坂下高校は来年初立70周年を迎えます。最近では小人数制の授業も多数選択可能で、きめこまかな進路指導も手厚く、生徒たちのほぼすべてが希望する進学・就職を叶えています。

商業系の資格取得に関する授業も充実し、他の普通高校とは一線を画す坂下高校。その魅力に迫りました。

魅力その1

豊富な選択授業

1年生が全員共通科目、2年生から進学を目指すコース、就職を目指すコースを選択。3年生ではさらに文系、理系、就職のそれぞれのコースに分かれて自身の進路に沿った授業を受ける事ができます。

四年生大学を目指す難易度の高い授業は少人数制で行うため、全ての生徒へ目が行き届きます。就職を目指す生徒は財務会計や情報処理の授業があり、就職に有利な簿記検定・ワープロ検定取得も可能です。



この日の選択授業は3名で行われていました。

魅力その2

心通う教育環境

先生方は全学年の生徒の一人ひとりの顔と名前を完全に把握しており、進路の事、学校生活の事を気軽に相談できる信頼関係を大切にしています。

また、毎朝校門で行うあいさつ運動を通して生徒との交流を図っています。PTAとの連携も強く、6月と11月に行う「朝のあいさつ運動、制服指導」にはPTA役員の方も駆けつけます。



先生、PTA、生徒会が並んでの朝のあいさつ運動。PTAの方はこの後仕事という方も多数。生徒の様子を見たり、交流できる良い機会だそうです。

坂高のここがスゴイ！！

生徒会の皆さんに聞きました！



先生が毎朝、校門であいさつしてくれる♪

やっぱり朝読書じゃない？

就職に有利な簿記検定が取れる授業もある！

数学は3人のクラスだから褒められます(笑)

入学してから進路が決めるのがいいよね

進学・就職に合わせて補習も受けられるよ！

公務員系の個別指導もしてくれるんだ。

先生がフレンドリー！何でも相談できるよ。

齋藤龍希さん 明田佑真さん 坂内萌人さん 阿部由惟人さん 新井田大樹さん 齋藤龍矢さん 磯目萌々さん 加藤優希さん



生徒会会長 阿部由惟人さん 3年

幅広い進路を選択できる高校です

生徒会長の阿部くんは町内の出身。坂下高校への進学の手は「生まれ育った町で高校生活を送りたかった」から。最初は地元愛で選んだ坂下高校だったけれど、少人数制の選択科目で理数系の授業に面白さを感じ、現在では大学進学を目指しています。

「個性を大切にして可能性を引き出してくれる学校です。坂下高校に入学したら、充実した学校生活が送れますよ。」と爽やかに答えてくれました。

「生徒会ではみんなの意見をまとめて、一つの事に突き進んでいく大変さ、楽しさを感じています。今年は三年に一度の文化祭。生徒みんなで町の人に楽しんでもらえるようなイベントをやりたいです。」と張り切っています。「坂下高校の魅力ある文化祭に皆さんぜひ足を運びてください！」と中学3年生達にラブコールを送りました。

生徒の夢を叶える坂下高校

諏佐 一夫 校長先生



坂下高校は少人数制の選択科目を多数用意し、進路指導に力を入れています。少人数の高校ならではの利点を生かして、生徒一人ひとりに目が届く体制で生徒をサポートします。また、先生と生徒が家族のように分かり合える関係づくりを行っています。

四年生制大学や公務員を目指して勉強に励んでいる子も大勢います。しかし彼らが最初から勉強を得意としていたわけではありません。きめ細やかな学習指導の中で力をつけてきました。坂下高校は、3年間の中で子どもたちのやる気や可能性を引き出し、夢を叶える高校です。中学3年生の皆さんが来年の春、入学してくれるのを心待ちにしています。

PICK UP! 朝読書ってなに??



生徒たちは毎朝授業開始前の10分間、自分の好きな本の読書を行います。毎日行っている大切な習慣で、国語力や語彙力を鍛えています。集中力を高める効果もあるそうで、先生方も授業中にその効果を実感しているようです。

僕が高校在学中、ちょうど坂下高校は進学に力を入れ始めた時期だったんです。四年制大学に行きたかった僕は、勉強もクラス委員等の活動もずいぶん頑張りました。結果、僕は四年制大学に進み、農業工学水利を学び、首都圏の不動産系会社に就職しました。その後、震災を機に会津坂下町に戻り、現在の会社に就職しました。目指していた四年制大学で学ぶことができたのも、あのととき坂下高校を選んだからこそ。坂下高校のいいところは頑張れば自分の望む先に進めるところ。これから入学を考えている人も、在校生も進路に向かって頑張ってください。



信頼の家づくりがモットーです！

株式会社 東北入谷まちづくり建設 営業部 太田陽介さん

会津坂下町で活躍する 坂下高校卒業生

作物生産からマーケティングまで学べる



県立会津農林高等学校

県立会津農林高等学校は創立111年。農業園芸科・森林環境科・食品加工科の専門的な3つの学科があり、会津全域の基幹産業である農業の専門的な知識と技術を学ぶことのできる高校です。最近では作るだけでなく、その販売手法まで教える事にも力を入れています。

魅力その1

専門知識と技術が身につく

総合実習、課外研修などを通して、農業の基礎から専門的で技術や知識を蓄えていく事ができます。学校敷地内には広大な畑やハウス、新鶴村には畜産施設もあり、実習環境が整っているのも魅力です。最近では作った作物にどんな付加価値を付けられるのかなど、販売方法を考察し、その手法を学ぶ授業を行っており、これからの農業に必要なマーケティング力を養うことができます。



魅力その2

伝統を繋ぐ取り組み

運動部や文化部の他に、農業高校ならではの活動や地域に根ざした活動を行う取り組みを行っています。最近では地域の専門家を招いて会津の伝統野菜の栽培を行い、継承していくこうと精力的に作付けしています。また、会津坂下町の祭事「御田植祭り」では「早乙女踊り」が披露されますが、早乙女踊り保存会の方と会農早乙女踊りクラブの生徒が一緒に踊り、その伝統を繋いでいます。



DATA

創立…1906年
 創 立 校 生 徒 … 300名
 課 程 … 農業園芸科・森林環境科・食品加工科
 所 在 地 … 会津坂下町字曲田1391
 主 な 進 路 … 東京農業大学、福島県農業総合センター
 東北シモン

ここで学ぶみんなが輝いています。

中川さんは会津若松市出身。農家ではない家庭で育った彼女が会農を選んだ理由は、学校見学で見た行動力あふれる先輩方に憧れたからだだったそうです。「作物の育て方、販売方法まで勉強できるのは普通高校にはない魅力です。すぐに農業が好きになりました。フィールドワークが好きな子も楽しめる高校です。」と、中川さん。
 今年の農業クラブ福島連盟の大会は会津坂下町で行われます。準備やその運営には生徒一人ひとりが役割を担います。「会農生みんなが活躍できる大会にします。」と志学会役員と知恵を出し合っていました。



志学会会長 3年 中川 夏帆さん



komelonの米とメロンよろしくね

こめろん **代表** ながみね **長** しん **峯** しん **伸**さん

家業の農業を継ぎたくて進学しました。当時、会津農林高校は全国農業クラブ連盟の福島県連盟事務局。私はその会長として県内外を飛び回り、他の農業高校生たちと大会を作りあげました。プレゼン力やディベート力もずいぶん養われました。その後農業大学に進学し、現在は父の代で技術の向上したメロンと米をメインに農業を行っています。少量生産農業でも売り方次第で楽しく、心豊かな生活が送れます。農家を目指すみなさんも、そうでない皆さんも農業高校で得た技術は生活の中で必ず役に立つはずですよ。

取材を通して見えたこと
どちらの高校の生徒も自分の進路に向かって、明確な意志を持ち、勉学に励んで輝いていました。また、それを支える先生方も大変熱心で魅力的だったことも共通していました。

各高校とも教育環境、教育体制が充実しています。坂下高校、会津農林高校には将来なりたいものを目指せる環境がありました。

会津坂下町の子ども達が2つの高校で勉強し、その成果をまた会津坂下町で発揮してくれたらと願います。

会津坂下町で活躍する会津農林高校卒業生

会農のここがスゴイ！！



佐々木 珠里さん 山浦 悠暉さん 小野 康平さん 佐藤 萌さん
大堀 優さん 中川 夏帆さん 五十嵐 慧さん

PICK UP! 農業クラブ意見発表会ってなに??



農業高校は全国組織の農業クラブ連盟に加盟しており、日頃の研究成果、プロジェクト発表を行う意見発表会を毎年開催しています。今年では会農が運営校。農業に興味を持つ若者を増やすため、生産者、加工業者、販売者を中高生が巡るツアーなども企画しているそうです。

地域に根ざした高校でありたい

佐藤 文男 校長先生



生徒が実際に就農したとき、生産技術や知識だけではなく、販売に関する考えも必要です。今や農作物の販売手法は一つではありません。どうしたら作物に付加価値をつける事ができるのか、形を変えるのか、売り先を変えるのかはアイデア次第です。それをぜひ会農で学んでほしいのです。

現在生徒たちは町と協働し、東京にある福島県の物産館「日本橋ふくしま館MIDETTE」で販売するための商品を作っています。都会で受けるものは？どんな人を対象に？など四苦八苦しつつも楽しみながら取り組んでいます。会農で作った商品がヒットして、地域の農家さんに原料の作付けをしてもらい、町の業者さんに加工してもらってという協働が生まれたら素晴らしいと思うのです。

坂高・会農で待ってるよ!

